

始末に困るプラスチックゴミ＊ 軟質と硬質に分けて



日常生活に役立っているプラスチック製品——しかし後始末がたいへんです

生活の向上に伴い、ゴミも多様化してきています。特に最近では、プラスチック類のゴミが増えています。これまでプラスチック類のゴミは、原則として燃えないゴミに分類していました。そ

埋め立て処理にも問題点

ゴミは燃える物と燃えない物に別れてゴミステーションへ——これまでこのようにお願いしてきましたが、これからは、もう一つ分別してもらいたいものがあります。プラスチック類のゴミです。

手で押してへこむような軟らかいプラスチック類は燃えるゴミへ、そして手で押してもへこまないような硬質のプラスチック類は、燃えないゴミとして分別して出してください。お願いします。

して回収したプラスチック類は最終処分場へ運び、破砕機で細かく砕いてから埋め立て処理をしていました。しかし、プラスチック類のゴミは、処理するのに非常にやっかいなしろものなのです。燃やすと高熱を発生し、焼却炉を傷めるおそれがあります。そのため、これまでは不燃物扱いにしていたのですが、不燃物として埋め立て処理をするにも問題点が多すぎるのです。問題の第一点は、同じ不燃物でも、金属類ならば最終処分場である程度回収して再

生ルートを乗せることができます。ところがプラスチックの再生ルートのまだ確立されていないため、運び込まれたプラスチック類は少しも減量できずに、一〇〇％埋め立て処理をするしかないということです。そして第二点としては、このように埋め立てられたプラスチック類は永久に腐らず、土壌還元されないということです。

軟質のものは 焼却処理で

現在、市之瀬最終処分場で埋め立て処理をしています。このままのペースなら、あと数年で満杯になってしまいます。かといって、ほかにかわりの埋め立て地を見つければ、も容易でない時勢です。そこで少しでも最終処分場の寿命を伸ばすために、プラスチック類のゴミの分別収集を行い、埋め立て処理をする量を減らしたいのです。幸い、軟質のプラスチック類は、硬質のものより燃焼時の温度が上がりませんが、焼却炉もそれほど傷みません。プラスチック類は、次の要領で分別して出してください。お願いします。

手で押してへこむものは可燃物に＊

燃えるプラスチック類
シャンプーや台所用洗剤の容器など手で押してへこむもの 魚、肉などのパック類 合成皮革（スリッパ、サンダルく） ゴム長くつ ビニールホースなど

燃えないプラスチック類

手で押してへこまないもの
電気製品 フェノール樹脂製品（重箱、おわん、お盆など） おもちゃ類 使い捨てライターなど

なお当然のことですが、燃えるプラスチック類は可燃物の収集日に、「燃えないプラスチック類は不燃物の収集日に」出してください。

お買物、ご用命は市内で

ホームテレホンD

便利さ、ゲーンとアップ。ドアホンにもつなげます。

(2台～5台の電話とドアホンがつなげます。)

料金等詳しくは ☎4-1000 新津電報電話局営業課へ

